XIV　看取った経験と自分の死や死後の準備とその共有

１　看取った経験の状況

個人票問 9（２）では、40 歳以上の個人に対して、「ここ 10 年で家族・近親者、近しい方を看取った経験について、あてはまるものをすべて選んでください。」と質問し、看取った対象者の属性について複数回答で聞いている。調査票において看取りとは、「ここでは、お亡くなりになる前の１年くらいの間に食事、見守り、介護・看護、生活支援をおこなった経験を言います。」と説明している。すなわち、いわゆる「死に目に会う」という状態ではなく、死亡前の一定期間の間に亡くなった方とケア関係にあったことを「看取った経験」として把握する企図がある。

図表 XIV-1 は性別に看取った経験の有無の割合を示したものである。看取った経験がある者は、設問において、2　自分の家族、3　家族以外の親族、4　友人など近しい関係の人、5　知人やご近所の方、のいずれかを看取った経験があると回答した者である。看取った経験がある者の割合は男性では 38.7%、女性では 43.0%であり、男女全体で 41.0%であった。

図表 XIV-1　男女別看取った経験の有無の割合（%）

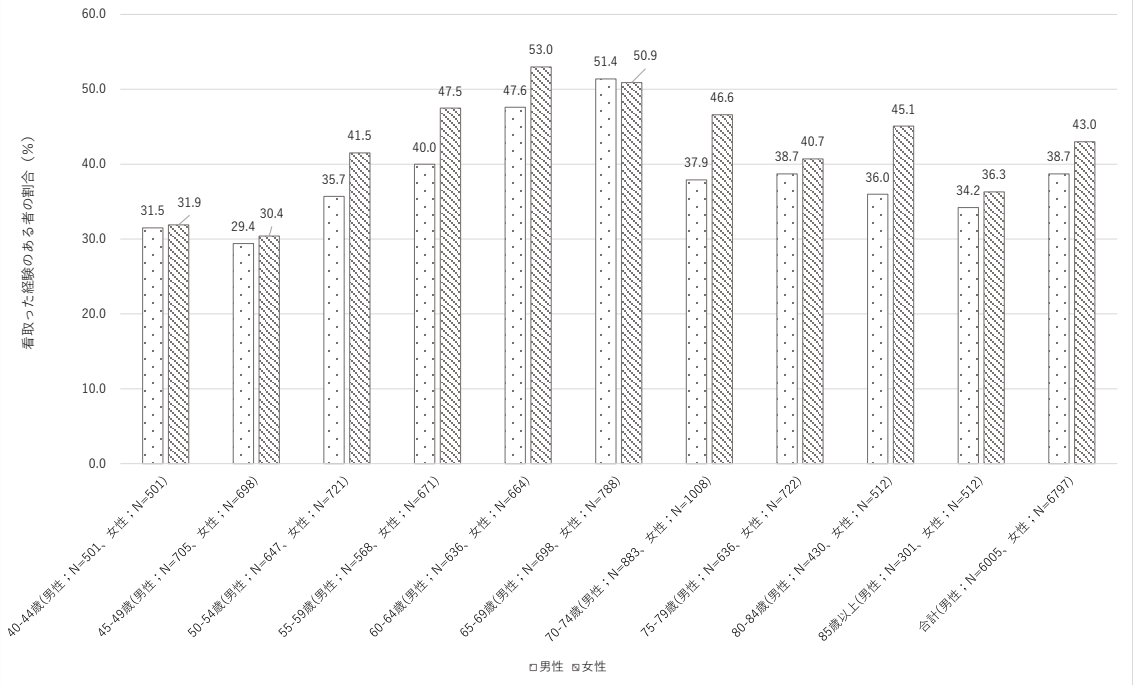
	看取った経験は無い	看取った経験あり	無回答
男女計(n=12802)	51.4	41.0	7.6
男性(n=6005)	53.3	38.7	8.0
女性(n=6797)	49.6	43.0	7.4

注）個人票により集計している。合計に非該当（40 歳未満の者）を含まない。

図表 XIV-2 は男女それぞれの年齢階級別の看取った経験のある者の割合である。65-69 歳階級を除いて、ほぼ全ての年齢層で女性の方が看取った経験のある者の割合が男性よりも高かった。男性においては 65-69 歳において看取り経験のある者の割合が 51.4%と最も高かった。女性においては、60-64 歳階級において 53.0%と最も高かった。65-69 歳より上の年齢層では、男性においては 40.0%未満の割合であった。女性についても同様に、65-69 歳より上の年齢層では 50.0%未満の割合であった。

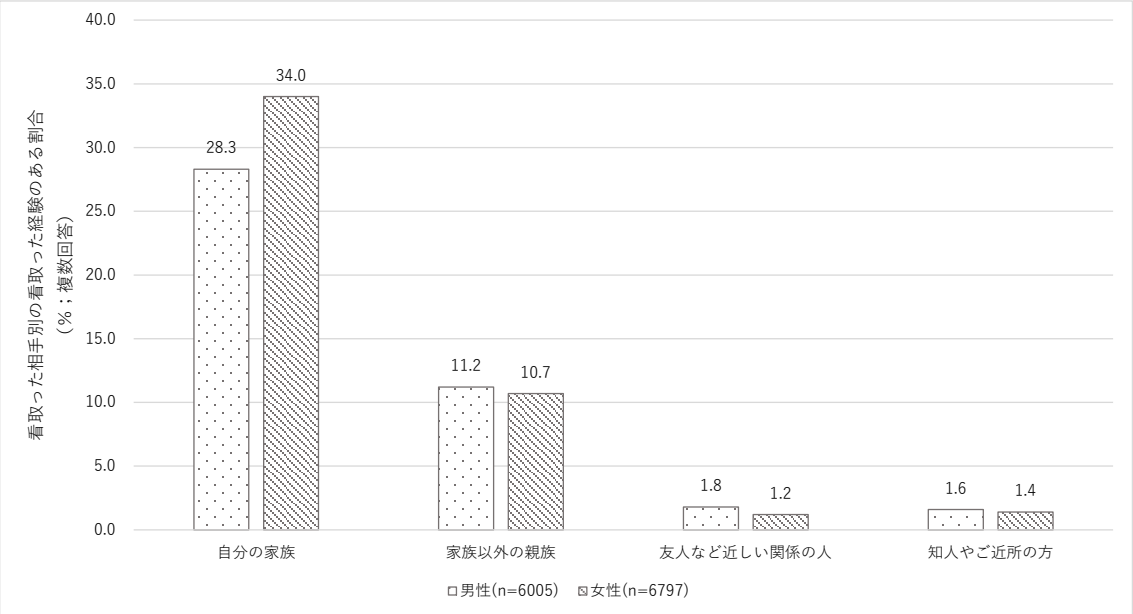
次に、看取った相手について細かく見ていく。男女別に看取った相手別に看取った経験のある割合を示したのが図表 XIV-3 である。男女ともに介護している者の看取った相手は自分の家族とする者が、男性は 28.3%、女性は 34.0%と最も多かった。また、小さい割合ではあるが友人など近しい関係の人（男性は 1.8%、女性は 1.2%）、知人やご近所の方（男性は 1.6%、女性は 1.4%）を看取ったと回答する者がいた。

図表 XIV-2　男女別年齢階級別看取った経験の有る者の割合（%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含むが、非該当（40 歳未満の者）を含まない。

図表 XIV-3　性別・看取った相手別の割合（%；複数回答）

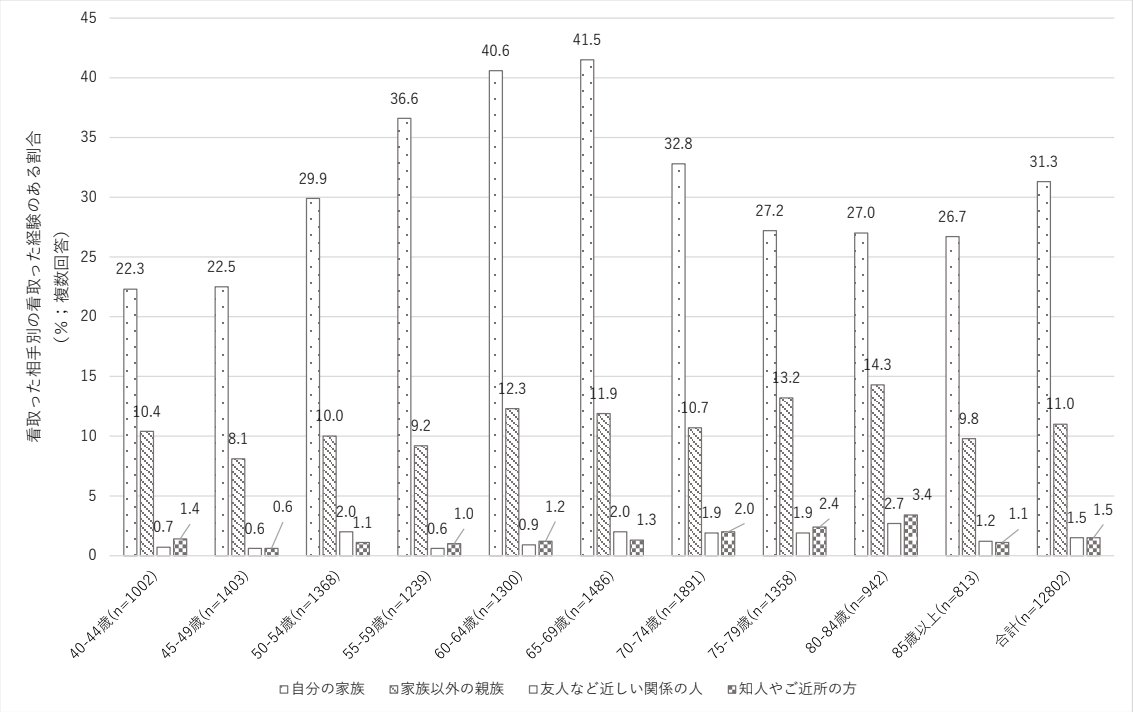


注）個人票により集計している。分母に無回答を含むが、非該当（40 歳未満の者）を含まない。複数回答のため合計は 100%にならない。

同様にして、年齢階級別・看取った相手別に看取った経験のある割合を示したのが図 XIV-

4 である。各年齢階級において自分の家族を看取った経験がある割合が最も高く、65-69 歳階級までは年齢が高まるほど看取った経験が高く、65-69 歳階級では、41.5%に達していた。それより上の年齢階級では逆に自分の家族を看取った経験があるとする者の割合は年齢が高くなるほど低く、85 歳以上では 26.7%であった。家族以外の親族については、60 歳未満の年齢階層ではおおむね 10%前後となっていた。60 歳～85 歳未満については、10%を超えていた。友人などの近しい関係の人については、高齢期である 65-69 歳階級から 80-84 歳階級の者において、1.9%～2.7%と相対的に高い割合で経験していた。知人やご近所の方についてはさらにやや高い年齢層である 70-74 歳階級から 80-84 歳階級の者において 2.0%～3.4%と他の年齢層と比較して相対的に高い割合で経験していた。

図表 XIV-4　年齢階級別・看取った相手別の割合（%；複数回答）



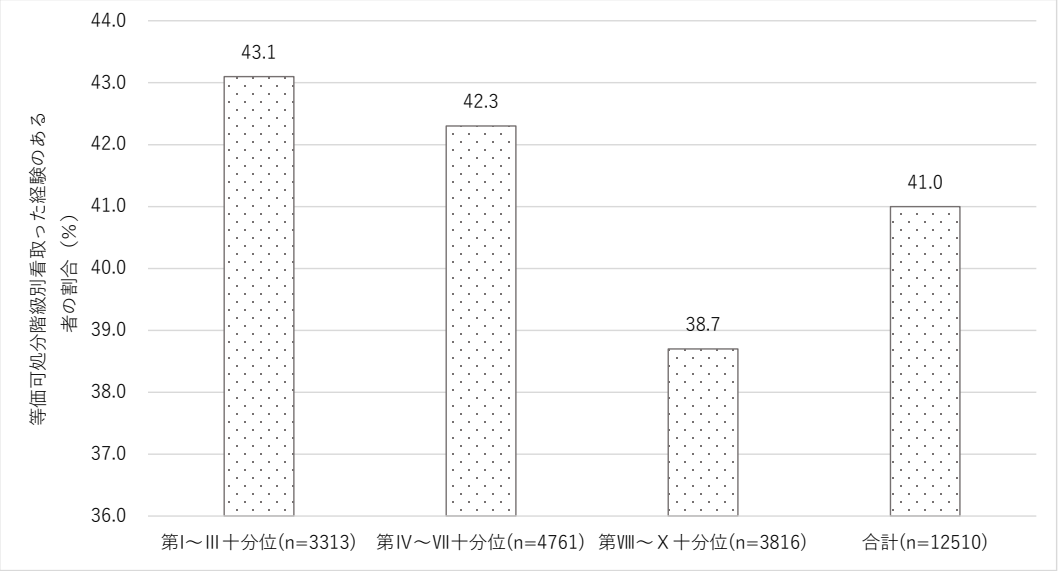
注）個人票により集計している。分母に無回答を含むが、非該当（40 歳未満の者）を含まない。

図表 XIV-5 は個人票と世帯票を接続した上で、世帯の等価可処分所得階級別に看取った経験のある者の割合を示したものである。所得が下から 30%の層である等価可処分所得第Ⅰ～Ⅲ十分位では、看取った経験がある者の割合は 43.1%であったが、世帯所得が高くなると看取った経験のある者の割合も低くなり、第Ⅷ～Ⅹ十分位では 38.7%であった。

図 XIV-6 は世帯の等価可処分所得階級別看取った相手別に看取った経験のある者の割合を示したものである。各所得階級において自分の家族を看取った経験がある者の割合が最も多かった。その割合は等価可処分所得第Ⅰ～Ⅲ十分位では 32.3%、第Ⅳ～Ⅶ十分位では 32.1%、第Ⅷ～Ⅹ十分位では 30.3%であり、差は小さかった。家族以外の親族、友人などの

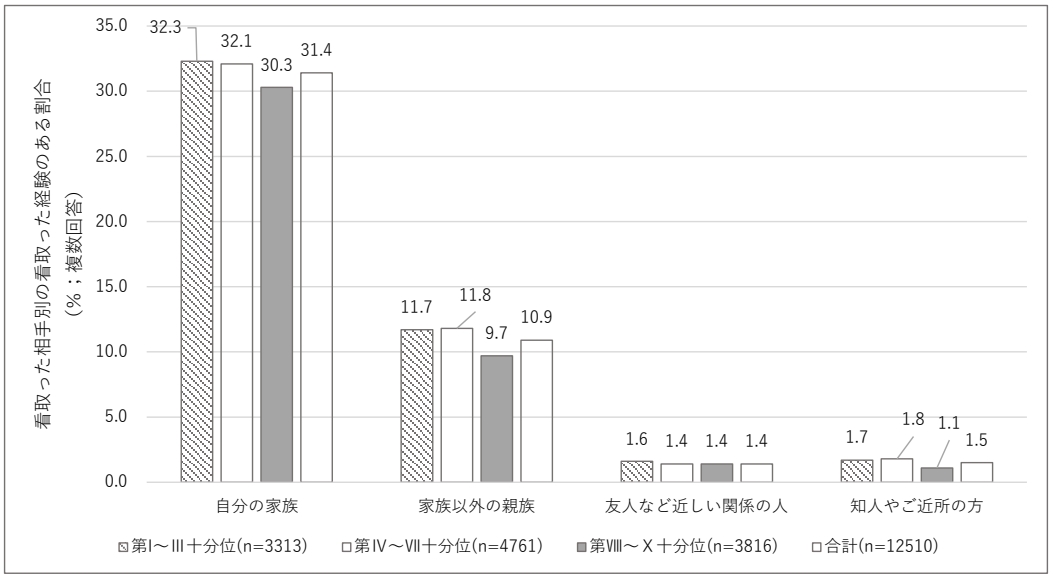
近しい関係の人、知人やご近所の方についても所得階級により看取った経験のある者の割合に大きな違いは見られなかった。

図表 XIV-5　世帯の所得階級別看取った経験のある者の割合（%）



注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含むが非該当（40 歳未満の者）を含まない。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

図表 XIV-6　世帯の所得階級別看取った相手別看取った経験のある者の割合（%；複数回答）



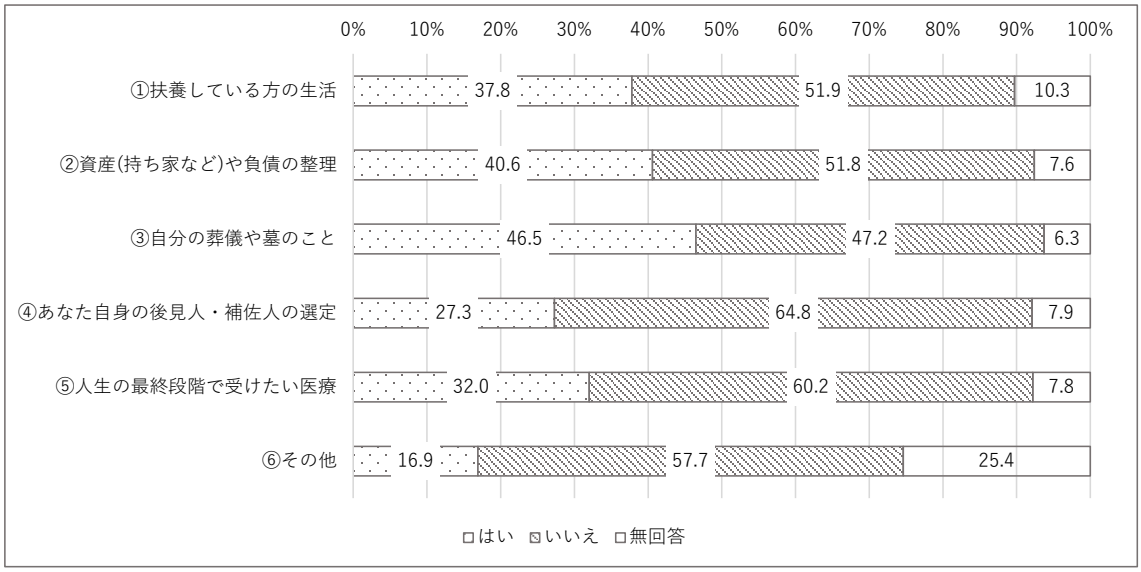
注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含むが、非該当（40 歳未満の者）を含まない。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。複数回答のため合計は 100%にならない。

２　自分の死や死後の準備

個人票問９（３）においては、次の６項目を取り上げて、自分の死や死後の準備を行っているか質問している：①扶養している方の生活、②資産（持ち家など）や負債の整理、③自分の葬儀や墓のこと、④あなた自身の後見人・補佐人の選定、⑤人生の最終段階で受けたい医療、⑥その他。それぞれについて、まず、(A) 準備をしたり、考えたりしているか、を聞いている。(A) に対して「はい」と回答した者に対して、(B) 内容について家族や友人などと具体的に話しているか、と質問している。なお、本設問の調査対象者も 40 歳以上である。

上述の①～⑥について(A) 準備をしたり、考えたりしているかに対して「はい」と回答した者の割合を見たものが図表 XIV-7 である。各項目のうち、もっとも準備されているものは③自分の葬儀や墓のことであり、その割合は 46.5%であった。②資産（持ち家など）や負債の整理は 40.6%、①扶養している方の生活は 37.8%と続いている。その他を除いて、準備をしているとする割合が最も低いのは④あなた自身の後見人・補佐人の選定であり、27.3%であった。次いで低いのは⑤人生の最終段階で受けたい医療で 32.0%であった。

図表 XIV-7　自身の死や死後の準備をしている者の割合（％；男女計）



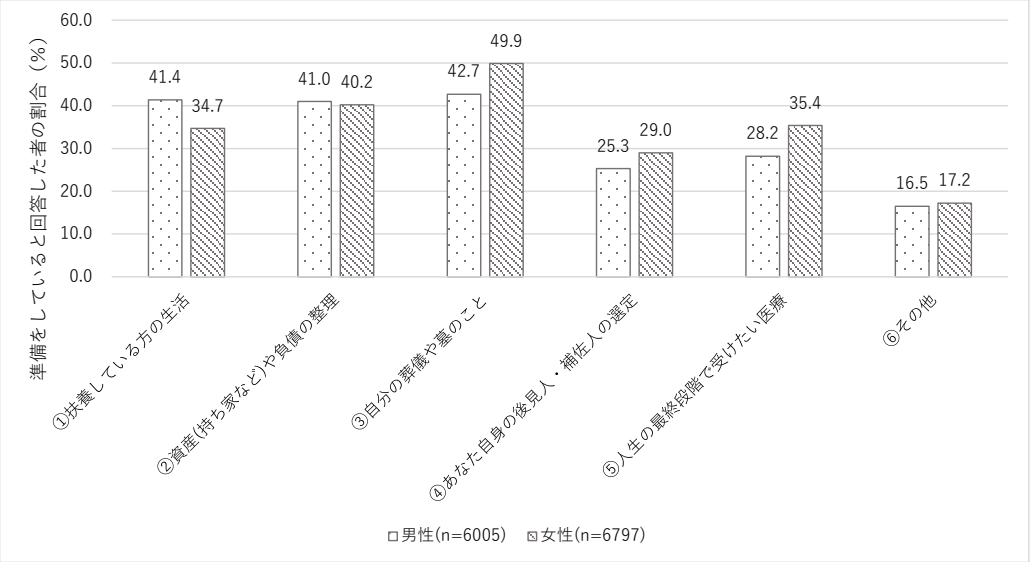
注)個人票により集計している。分母に無回答を含み、非該当(40 歳未満の者)を含まない(男女計; n=12802)。

性別に自分の死や死後の準備の状況について見たのが図表 XIV-8 である。男女間で相対的に差が大きかったのは、①扶養している方の生活（男性は 41.4%、女性は 34.7%)、③自分の葬儀や墓のこと（男性は 42.7%、女性は 49.9%)、⑤人生の最終段階で受けたい医療（男性：28.2%、女性：35.4%）であった。

年齢階級別に見たものが図表 XIV-9 である。本設問の回答対象者のうち最も若い年齢層である 40～44 歳においても、自分の死や死後に向けて、①扶養している方の生活について準備をしたり、考えたりしている者は 37.4%と 3 人に 1 人の割合となっていた。④あなた

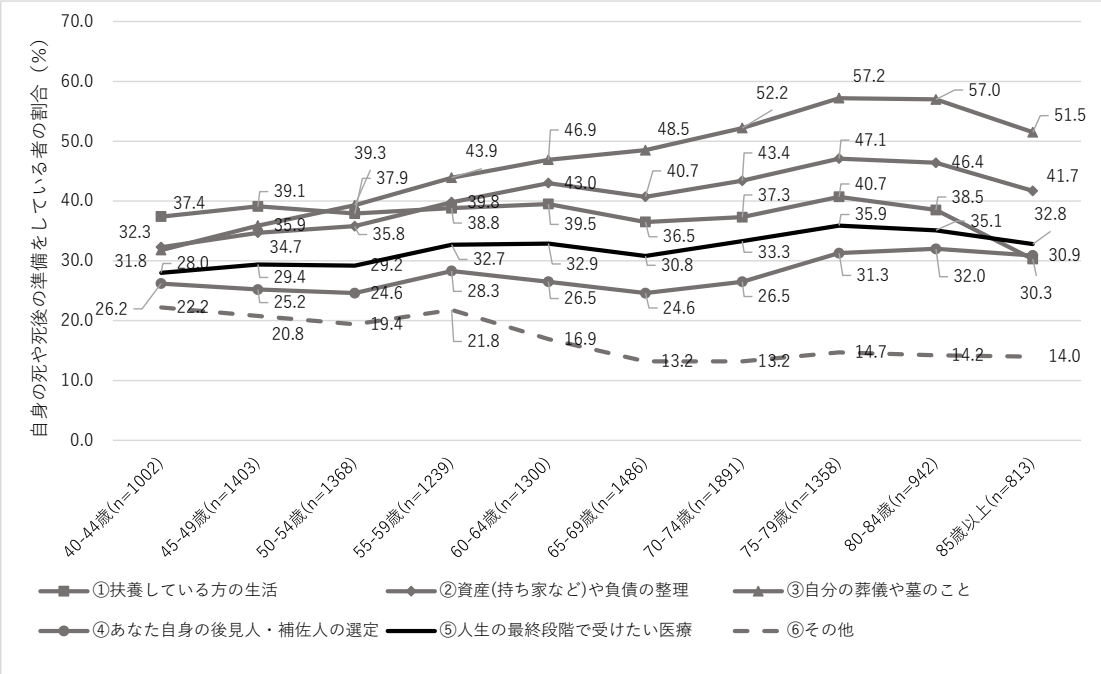
自身の後見人・補佐人の選定や⑤人生の最終段階で受けたい医療については 40～44 歳階級で準備していると回答した者の割合は相対的に低く、それぞれ 26.2%、28.0%となっていた。

図表 XIV-8　性別自身の死や死後の準備をしている者の割合（%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含み、非該当（40 歳未満の者）を含まない。

図表 XIV-9　年齢階級別自身の死や死後の準備をしている者の割合（%）

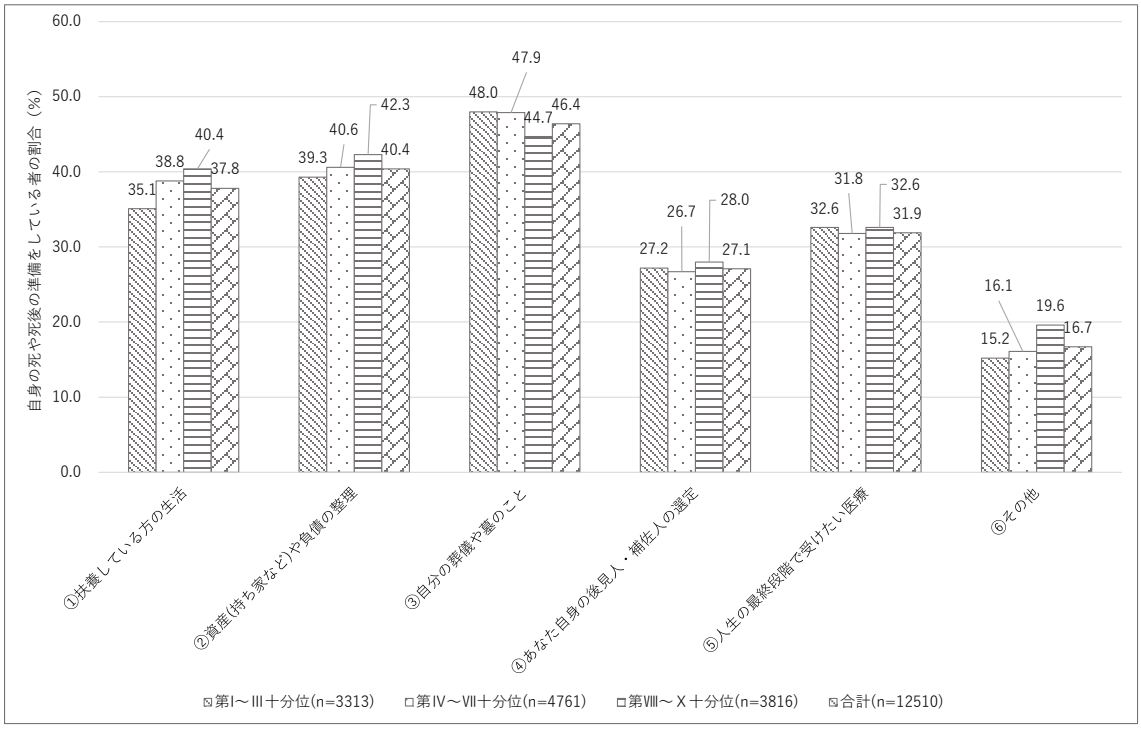


注）個人票により集計している。分母に無回答を含み、非該当（40 歳未満の者）を含まない。

年齢が高くなるほど、②資産(持ち家など)や負債の整理や③自分の葬儀や墓のことを準備しているとする者の割合は高くなり、75-79 歳階級においてそれぞれ最も高く、②資産(持ち家など)や負債の整理は 47.1%、③自分の葬儀や墓のことは 57.2%となっていた。他方で、高い年齢でも準備をしている者の割合が高くならない項目もあった。④あなた自身の後見人・補佐人の選定は最も高くて 32.0%（80-84 歳階級)、同様にして⑤人生の最終段階で受けたい医療では 35.9%（75-79 歳）であった。

世帯の所得階級別に自身の死や死後の準備をしている者の割合を見たのが図表XIV-10 である。①扶養している方の生活については、第Ⅰ～Ⅲ十分位では、準備をしたり、考えたりしている割合は 35.1%、第Ⅳ～Ⅶ十分位は 38.8%、第Ⅷ～Ⅹ十分位は 40.4%と所得階級が高いと準備している者の割合がやや大きい状況であった。②資産（持ち家など）や負債の整理については、第Ⅰ～Ⅲ十分位は 39.3%、第Ⅳ～Ⅶ十分位は 40.6%、第Ⅷ～Ⅹ十分位は 42.3%であった。③自分の葬儀や墓のことについては、第 Ⅰ～Ⅲ十分位では、48.0%であったが、第Ⅳ～Ⅶ十分位は 47.9%、第Ⅷ～Ⅹ十分位では 44.7%と所得階級が高いと準備している者の割合がやや小さい状況であった。①扶養している方の生活に比して、それ以外の項目については総じて所得階級による差は相対的に小さかった。

図表 XIV-10　世帯の所得階級別自身の死や死後の準備をしている者の割合（%）

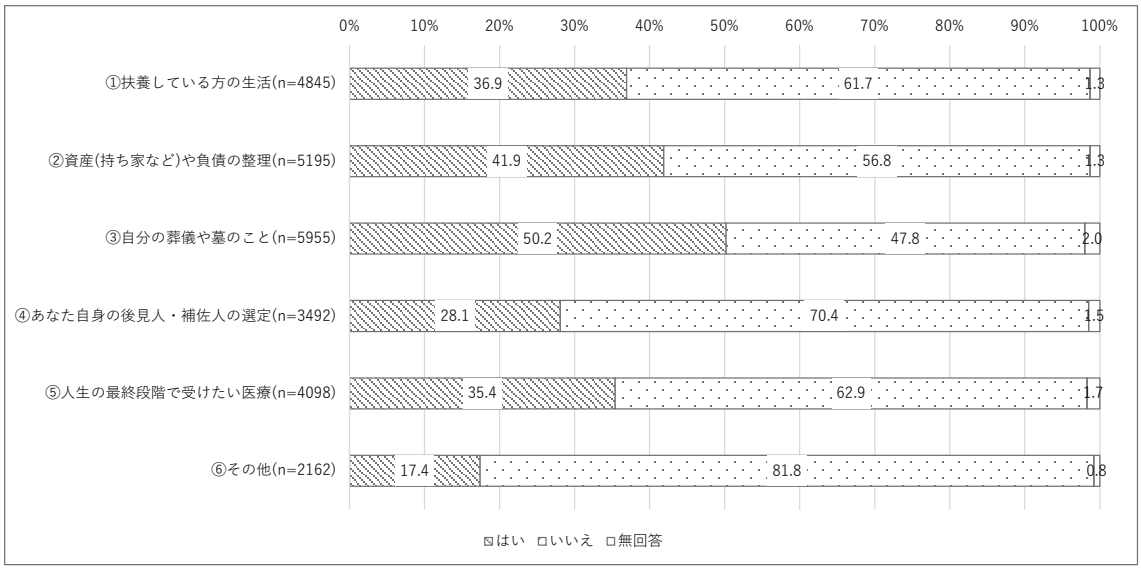


注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含むが非該当（40 歳未満の者）を含まない。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

３　自分の死や死後の準備について家族や友人などとの共有状況

自身の死や死後の準備をしていると回答した者のうち、家族や友人などと具体的に話しているかについての割合を見たのが図表 XIV-11 である。図中で各項目について「はい」と示されている割合が自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合となる。最も共有されているのは③自分の葬儀や墓のことであり、50.2%であった。以下、②資産(持ち家など)や負債の整理は 41.9%、①扶養している方の生活は 36.9%、⑤人生の最終段階で受けたい医療は 35.4%、④あなた自身の後見人・補佐人の選定は 28.1%となっていた。

図表 XIV-11　自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合（%）



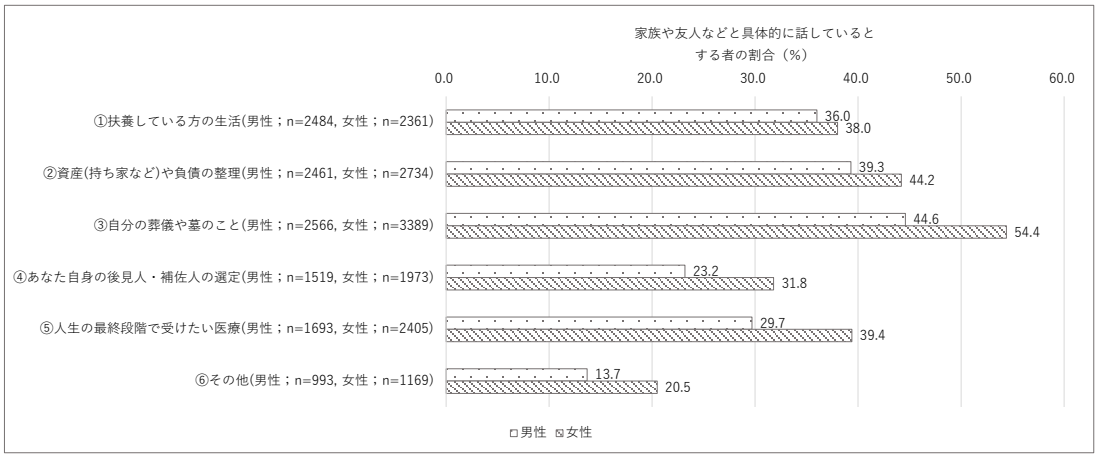
注）個人票により集計している。分母に無回答を含むが、非該当（40 歳未満の者、準備についての質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答の者）を含まない。

同様にして性別に家族や友人などと具体的に話しているかについての割合を見たのが図表XIV-12 である。いずれの項目においても女性の方が共有している割合が高かった。特に、③自分の葬儀や墓のこと（男性は 44.6%、女性は 54.4%）、⑤人生の最終段階で受けたい医療（男性は 29.7%、女性は 39.4%）については共有している割合に約 10%ポイント、④あなた自身の後見人・補佐人の選定（男性は 23.2%、女性は 31.8%）については 8.6%ポイント、それぞれ男女間で共有している割合に差があった。

年齢階級別に家族や友人などと具体的に話しているかについての割合を見たのが図表 XIV-13 である。各年齢階級、項目ごとのサンプルサイズは図表 XIV-13-2 表に示されている。その他を除けば、最も若い年齢層である 40-44 歳階級においては共有している割合が最も低いのは、④あなた自身の後見人・補佐人の選定で 9.9%であり、最も高いのは①扶養している方の生活は 23.2%であった。年齢層が高くなると、自身の死や死後の準備をしていると回答した者のうちでその考えを共有している者の割合は高くなり、各項目について

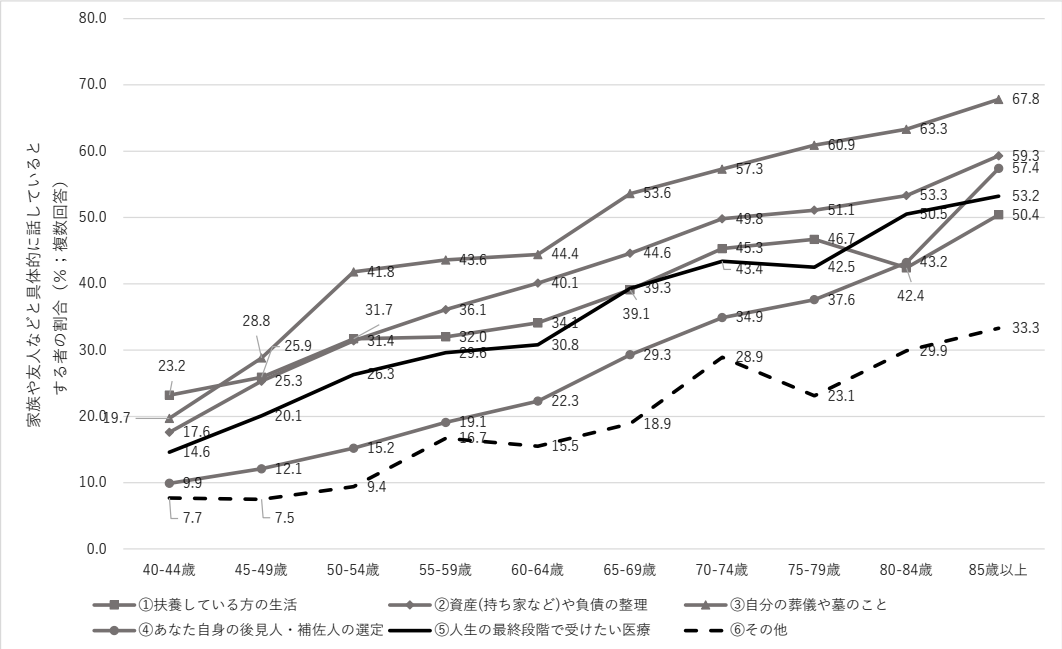
85 歳以上階級について最も高くなっていた。③自分の葬儀や墓のことは 67.8%、②資産(持ち家など)や負債の整理は 59.3%、④あなた自身の後見人・補佐人の選定は 57.4%、⑤人生の最終段階で受けたい医療は 53.2%、①扶養している方の生活は 50.4%であった。

図表 XIV-12　性別自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合（%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含み、非該当（40 歳未満の者、準備についての質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答の者）を含まない。

図表 XIV-13　年齢階級別自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合（%）



注）個人票により集計している。合計に無回答を含み、非該当（40 歳未満の者、準備についての質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答の者）を含まない。

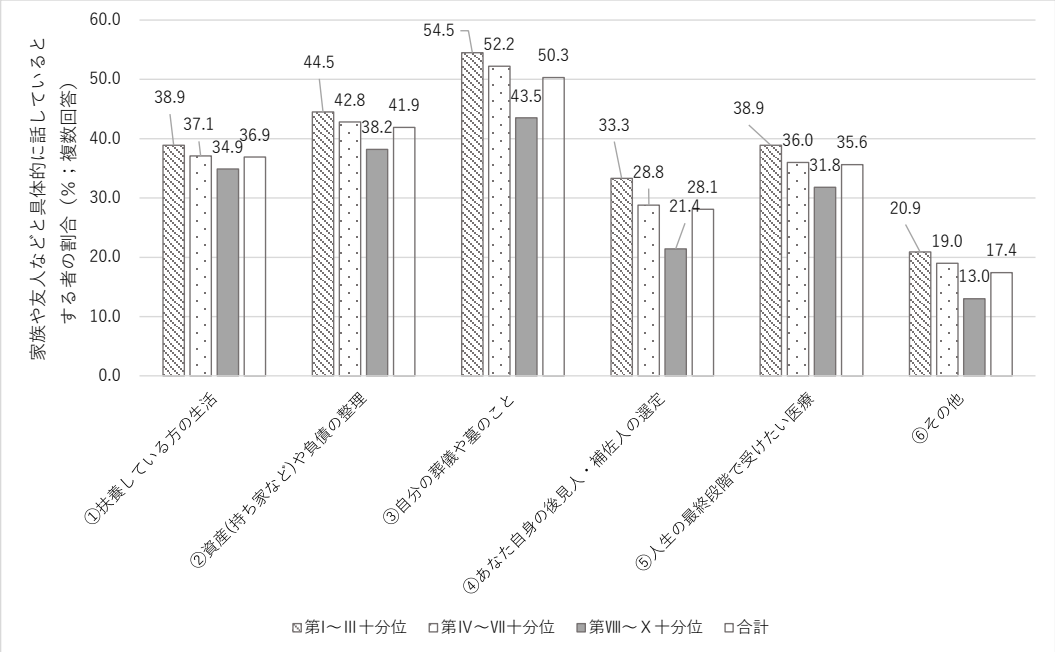
参考　年齢階級別自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合についての図のサンプルサイズ

男女計	①扶養している方の生活	②資産(持ち家など)や負債の整理	③自分の葬儀や墓のこと	④あなた自身の後見人・補佐人の選定	⑤人生の最終段階で受けたい医療	⑥その他
40-44歳	375	324	319	263	281	222
45-49歳	548	487	503	354	412	292
50-54歳	518	490	538	336	400	266
55-59歳	481	493	544	351	405	270
60-64歳	513	559	610	345	428	220
65-69歳	542	605	720	365	458	196
70-74歳	706	821	988	501	629	249
75-79歳	553	640	777	425	487	199
80-84歳	363	437	537	301	331	134
85歳以上	246	339	419	251	267	114
合計	4,845	5,195	5,955	3,492	4,098	2,162

注）個人票により集計している。無回答を含み、非該当（40 歳未満の者、準備についての質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答の者）を含まない。

図表 XIV-14 は世帯の所得階級別に自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合を示したものである。各所得階級、項目ごとのサンプルサイズは図表 XIV-14-2 表にて与えられる。

図表 XIV-14　世帯の所得階級別自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合（%）



注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含み、非該当（40 歳未満の者、準備について

の質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答の者）を含まない。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

参考　世帯の所得階級別自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合についての図のサンプルサイズ

	①扶養している方の生活	②資産(持ち家など)や負債の整理	③自分の葬儀や墓のこと	④あなた自身の後見人・補佐人の選定	⑤人生の最終段階で受けたい医療	⑥その他
合計	4,729	5,056	5,801	3,392	3,985	2,090
第Ⅰ～Ⅲ十分位	1,163	1,303	1,590	901	1,079	503
第Ⅳ～Ⅶ十分位	1,846	1,935	2,282	1,273	1,514	768
第Ⅷ～Ⅹ十分位	1,543	1,615	1,706	1,068	1,244	749
世帯所得不明	177	203	223	150	148	70

注）世帯票及び個人票により集計している。非該当（40 歳未満の者、準備についての質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答)、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

図表 XIV-14 を見ると、いずれの項目についても所得階級が高いほど、死後の準備をしている者の中でもその考えを共有している者の割合が低くなっていることがわかる。特に、④あなた自身の後見人・補佐人の選定について共有している者の割合は、第 Ⅰ～Ⅲ十分位は 33.3%、第Ⅷ～Ⅹ十分位は 21.4%と 11.9%ポイントの差があった。また、③自分の葬儀や墓のことについては、第Ⅰ～Ⅲ十分位では、54.5%であったが、第Ⅷ～Ⅹ十分位では 43.5%と 11.0%ポイントの差があった。これらは所得階級間の共有の割合に相対的に大きな差があるものである。他方で、①扶養している方の生活については、第Ⅰ～Ⅲ十分位は 38.9%ポイント、第Ⅷ～Ⅹ十分位は 34.9%ポイントと 4%ポイントの差であり、相対的に所得階級間の差が小さかった。

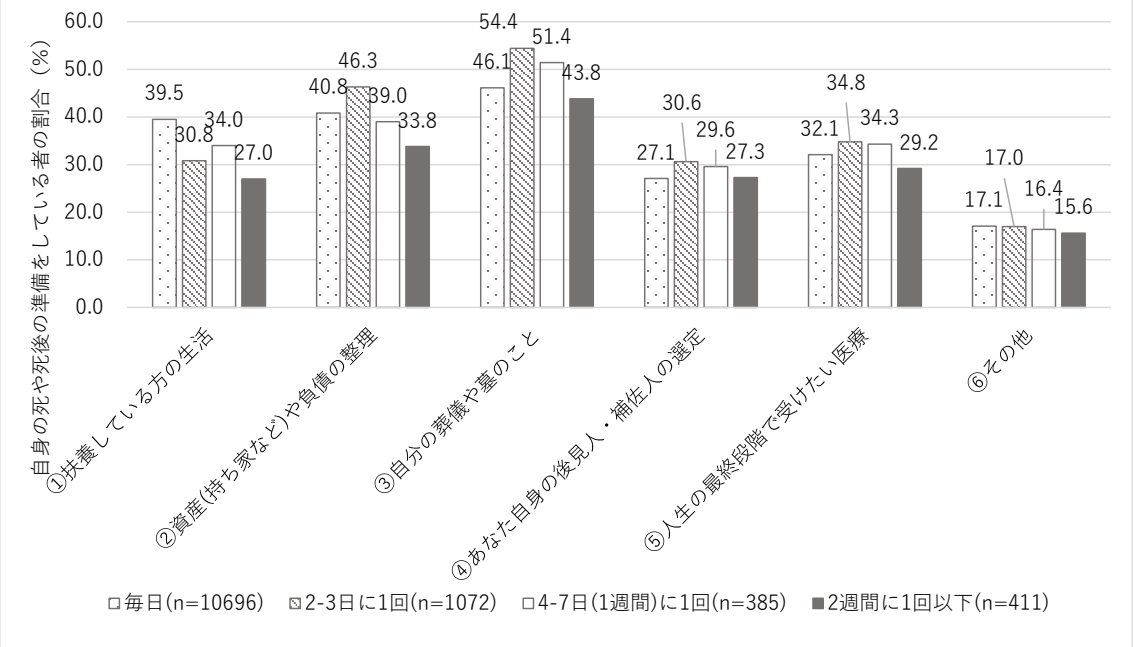
４　会話頻度と自分の死や死後の準備、及びその家族や友人などとの共有状況

図表 XIV-15 は会話頻度別に各項目について死や死後の準備をしている者の割合を見たものである。①扶養している方の生活については、会話頻度が毎日である者が最も準備をしており、39.5%の者が準備をしていると回答した。2-3 日に 1 回は 30.8%、4-7 日(1 週間)に 1 回は 34.0%、2 週間に 1 回以下は 27.0%となっており、会話頻度が毎日の者と 2 週間に 1 回以下の者では準備している者の割合に 12.5%ポイントほど差があった。

②資産(持ち家など)や負債の整理、③自分の葬儀や墓のこと、④あなた自身の後見人・補佐人の選定、⑤人生の最終段階で受けたい医療についてはそれぞれ会話頻度が 2-3 日に 1 回とする者において自分の死や死後の準備について準備をしている者の割合が大きく、それよりも会話頻度が少ないと準備をしている者の割合は小さかった。②資産(持ち家など)や負

債の整理では準備をしている者の割合が､2-3 日に 1 回は 46.3%､2 週間に 1 回以下は 33.8%と両者で 12.5%ポイントの差があった。また、③自分の葬儀や墓のことについても、2-3 日に 1 回は 54.4%、2 週間に 1 回以下は 43.8%と両者で 10.6%ポイントの差があった。他方で、⑤人生の最終段階で受けたい医療については 2-3 日に 1 回は 34.8%、2 週間に 1 回以下は 29.2%と両者で 5.6%ポイントと相対的に小さい差となっていた。

図表 XIV-15　会話頻度別自身の死や死後の準備をしている者の割合（%）



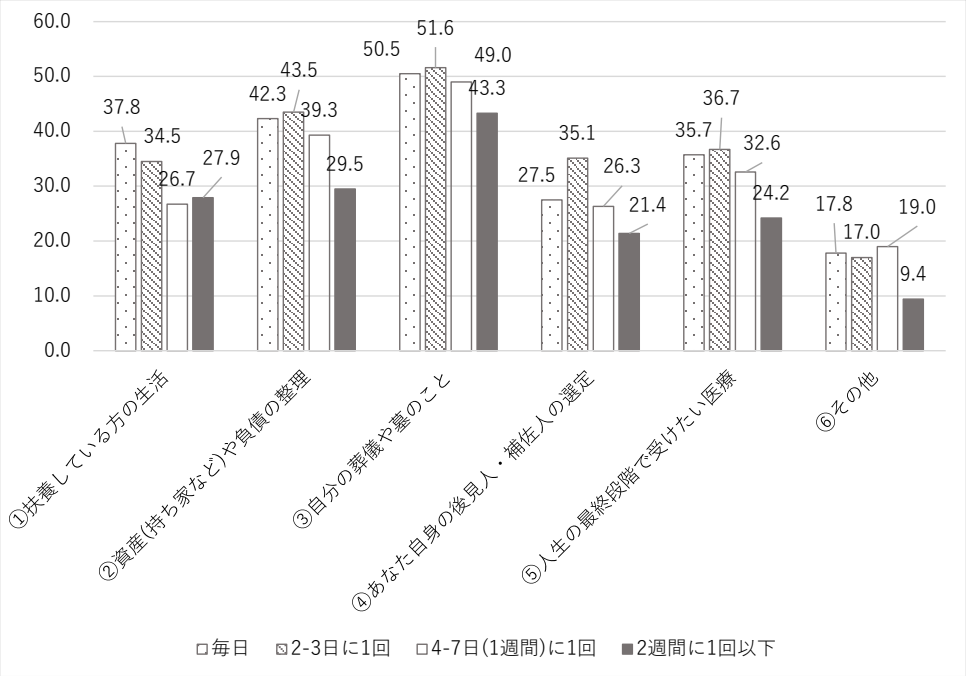
注）個人票により集計している。分母に無回答を含み、非該当（40 歳未満の者）を含まない。

図表 XIV-16 は会話頻度別に自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合を示したものである。①扶養している方の生活について見ると、自身の死や死後の準備をしている者のうち、会話頻度が毎日である者において自身の死や死後の準備について考えを共有している割合が 37.8%と最も高く、それよりも会話頻度が少ない場合には、2-3 日に 1 回は 34.5%、4-7 日(1 週間)に 1 回は 26.7%、2 週間に 1 回以下は 27.9%となっていた。

②資産(持ち家など)や負債の整理、③自分の葬儀や墓のこと、④あなた自身の後見人・補佐人の選定、⑤人生の最終段階で受けたい医療については、それぞれ会話頻度が 2-3 日に 1 回とする者において自分の死や死後の準備について共有している者の割合が大きく、それよりも会話頻度が少ないと共有している者の割合は小さかった。②資産(持ち家など)や負債の整理では、共有している者の割合が、2-3 日に 1 回は 43.5%、2 週間に 1 回以下は 29.5%と両者で 14.0%ポイントの差があった。また、④あなた自身の後見人・補佐人の選定では 2-3 日に 1 回は 35.1%、2 週間に 1 回以下は 21.4%と両者で 13.7%ポイント、⑤人生の最終段階で受けたい医療についても 2-3 日に 1 回は 36.7%、2 週間に 1 回以下は 24.2%と両者で

12.5%ポイントと相対的に大きな差があった。

図表 XIV-16　会話頻度別自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合（%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含み、非該当（40 歳未満の者、準備についての質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答の者）を含まない。

参考　会話頻度別自身の死や死後の準備について考えを共有している者の割合についての図のサンプルサイズ

	①扶養している方の生活	②資産(持ち家など)や負債の整理	③自分の葬儀や墓のこと	④あなた自身の後見人・補佐人の選定	⑤人生の最終段階で受けたい医療	⑥その他
合計	4,845	5,195	5,955	3,492	4,098	2,162
毎日	4,222	4,360	4,933	2,896	3,430	1,830
2-3日に1回	330	496	583	328	373	182
4-7日(1週間)に1回	131	150	198	114	132	63
2週間に1回以下	111	139	180	112	120	64
無回答	51	50	61	42	43	23

注）個人票により集計している。非該当（40 歳未満の者、準備についての質問に「いいえ」と回答した者）及び不詳（準備についての質問に無回答）を含まない。